

比庵佳境の会

山の上の 一つ老松 誰をまつ 年々に来て われは見にけり

比庵九十三



比庵の故郷は生れ故郷の岡山県高梁市と芸術活動拠点で菩提寺がある笠岡市の二つある。左は笠岡古城山公園、右は高梁の松山である。

吉備路文学館で「清水比庵展」があり、清水固「比庵佳境の会」会長が講演されるので、比留間哲生氏と私がお供させていただきます。比留間氏は講演のお手伝い、私は自信のない俄カメラマン。現地の移動は比留間氏運転のレンタカーで。

続きは次ページに・・・



吉備路文学館で

比庵三昧の岡山の三日間

吉備路文学館での清水比庵展と清水固氏講演会報告

山本陽一

神代植物公園のバラめぐりと深大寺拝観

1. 日時 10月28日(火) 10時20分 小雨実施
2. 集合場所 JR三鷹駅改札口(南口寄り)または京王線調布駅(八王子側)地上出口
係が「比庵佳境の会」の札を掲げて立っています。
小田急バス 三鷹駅南口5番乗り場 10:29発
同上 調布駅北口13番乗り場 10:38発
3. 申込み先 清水 固宅
「緊急時の連絡先」「当日朝の利用駅(三鷹か調布か)」も併せてお知らせ下さい。
4. 申込み期限 10月18日(土)
5. 費用 交通費および昼食代各自負担

詳しくは4ページをご覧ください

光明寺で秋の比庵展

(地元の方々に比庵を紹介する試み)

1. 日時 11月26日(水) 10時~16時
2. 場所 横浜市栄区上郷町1054 光明寺会館
JR京浜東北線(根岸線)港南台駅よりバスで15分
2番乗場 庄戸循環港南台行 光明寺前下車 目の前
3. 出品 富士山、老松、雀、花、風景、書等の額装品他
4. トーク 午前午後各1回(清水固)
5. 申し込み 不要、どなたでも可

後日に別途パンフレットを作成します。

倉敷市立美術館では安養寺 襖書を見る

七月十一日(金)晴 岡山に着いて吉備路文学館へ挨拶、講演の打合せの後倉敷市立美術館へ。笠岡の美術商豊池氏が先着、固氏の妹ワーズン充子(みつこ)さんご一家(米国在住)と合流。比庵九一歳の作である倉敷市安養寺襖書を拝見。十二枚の襖に先ず新年、春、夏、秋、冬に分けて比庵の自詠歌を書き、そのあと論語の「三十而立……六十而耳順」と書き、そのあとを「いふところよろしよろしと聲高き茶のみばなしは老いものなり」と自詠で締めた粋なユーモアと展開の妙。最後の四枚の裏には、小林和作が唐詩四首を揮毫。いきなり大作との出会い



講演する清水固氏



倉敷市立美術館にて 左端が筆者山本陽一

であった。

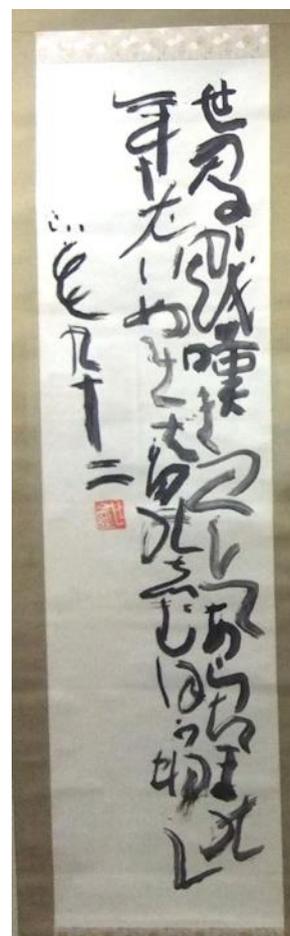
笠岡では比庵の菩提寺威徳寺を訪れる

七月十二日(土)晴 山陽自動車道で笠岡へ。先ず豊池美術店で比庵彩色のこけしや書を拝見。男こけしの胴には緑の絵具で「水清き川のながれて……」の歌が、女には「ほのぼのとむらさき匂ふ……」の歌が今書かれたばかりのような鮮やかさだ。九十一歳の作。古城山公園の比庵歌碑の草稿を豊池氏が手に入れ、市に寄贈された新聞記事のコピーをいただく。比庵の菩提寺の威徳寺では比庵の書が掛かる庫裏でおいしい抹茶をごちそうになった。



威徳寺の比庵歌碑の前にて

九十を超えたお元気なご住職から比庵の思い出話を伺い、比庵の両親、比庵夫妻、弟妹が「まどかに」眠るお墓にお参りした。



吉備路文学館では比庵展と清水固氏の講演を聴く

七月十三日(日) 雨のち曇り 比庵のふるさと岡山ならではの密度の濃い展示。比庵三芸の歌・書・画の多くの作品に加えて娘明子さん(固氏の母)の「亡き父はハートの中にましまして一人娘のわれを見守る」の百一歳の色紙も。若々しい洒落れた歌。

「祖父比庵と母明子を語る」の映像を使った講演は、比庵晩年の芸境を中心に身内ならではの視点で、比庵ワールドを印象づけた淀みないお話。墨の美術館の濱崎道子先生も駆けつけられた。定員八十名のところ椅子を増して百名余りの盛況。講演を聴いて、もう一度展示を見ると、作品がぐっと迫って見えた筈。展示の半折に「けんかすることく書をかく人のありわれは愛人とダンスすることく」があったが、たしかに比庵の書画はたのしい。しかし、別の半折の「世のなかを嘆きつくしてあらたまの年老いぬればたのしむほかなし」にハッとさせられた。比庵芸術が心にしみる所以である。

比庵あれこれ

清水比庵 妻鶴代への挽歌

清水 固

比庵の妻鶴代は糟糠の妻として比庵を支えたが、比庵六〇歳の昭和一七年（一九四二年）五六歳で亡くなった。私が小学校五年生の時である。比庵が日光町長を辞して愈々芸術活動を始めようとした矢先だった。比庵の落胆・悲しみは子供心の私にも十分感じられるほどであった。しかし比庵は弟妹始め多くの人に励まされてこれをバネに芸術活動を本格的



清水鶴代

一 亡妻への挽歌

子供心に祖父の落胆ぶりを記憶している私は、比庵の妻への挽歌には心を打たれ胸が熱くなる。

- ・わが妻はうつくしかりき死顔のかくうつくしとしてあるをわれは見ず
- ・亡き妻の里にしあれば高梁ゆ有漢（うかん） 四里みち曼珠沙華のはな
- ・墓の前少し掃除し花たててかくはたま



有漢の歌碑

には逢ひに来にけり
木蓮の花咲く妻の墓に来て何もいはねどしばらくをりぬ

- ・身のまはりひとりみずからすることは死にたる妻をおもふことなり
- ・十一月二十三日妻の日なり夕日が赤くひとり見てをる

二 比庵の亡妻への想いについて

（孫の私見）

① 亡き妻の里にしあれば高梁ゆ有漢四里みち曼珠沙華の花

この歌は妻の実家笹田家の菩提寺である有漢（うかん）現在高梁市）宝妙寺に歌碑とし残っている。比庵は子供時代の思い出として高梁から四里（二六里）もある隣村有漢の従妹鶴代の実家について「伯母さん（鶴代の母）が可愛がってくれて遊びに行くと帰る時には何時もうまい弁当をたくさん作ってくれ、貰った土産と一緒に振り分けて肩に掛けて、四里の山道を歩いて帰るのだが、有漢に行くのがとても楽しみだった」と明子に話していた。楽しみの一つに四歳年下の可愛い従妹鶴代に会える事もあったろう。その様な比庵の話と組み合わせるとこの歌は子供時代からの鶴代との思い出を籠めた篤い一首だと孫の私は想像している。曼珠沙華の花（彼岸花）の画も画いている。

② コケシの画

「窓日」昭和四六年一〇月号駒込だよりに比庵は次の様に書いている「七月号から新しくなった表紙のコケシの画が良いと言う手紙を沢山貰った。特に女のコケシが可愛いといふ。これには秘密がある。小生の女コケシを見る人が三〇年前



こけしの画

に死んだ小生の家内を知っていたら奥さんがモデルと云っただろう。これは必ずそういふことになる」この言葉は比庵の脳裏に亡き鶴代の面影が強く残っていることを示している。

③ 鶴の画と書

比庵は縁起物として正月などに松・竹・梅の画を多く画いているが、



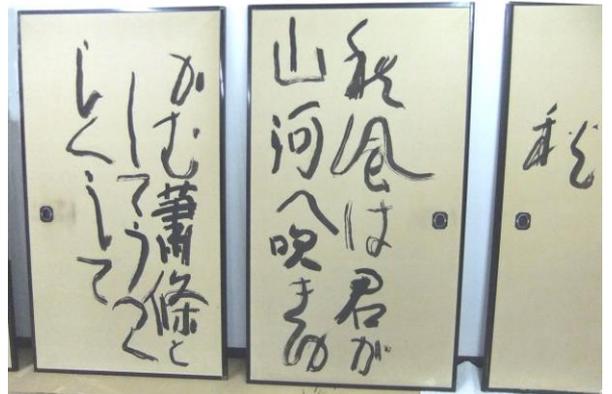
朝日いま上がらんとしてくれないに東なかばを染めぼかしたり 比庵九十三



鶴・亀については鶴だけ多く画いている。また「鶴一聲」の書もある。比庵にとつては「鶴」は格別の意味があったのではなからうかと私は勝手に想像している。

④ 秋風は君が山河へ吹きゆかむ蕭條としつつくしとして

この歌は比庵の代表的な相聞歌であり何人かの男女に送っている。ある比庵ファンの方がこれは亡き奥さんを想って詠んだのではないかと書いていたが、私も同感である。因みに比庵は九一歳の時に襖一二枚に新年・春・夏・秋・冬それぞれを詠んだ歌を書いているが、次の歌としてこの歌を選



屏風 秋風は

門前の蕎麦はうましと 誰もいふ この環境の みほとけありがたや



写真左は深大寺歌碑を直書する比庵九十二歳 中は比庵歌碑 右は深大寺山門



神代植物公園のバラ園

「比庵佳境の会」今秋の催し物 神代植物公園のバラめぐりと 深大寺拝観

十月二十八日(火)

東京都の一角に武蔵野の面影を色濃く残す都立神代植物公園と名刹深大寺。この深大寺の境内には、比庵自身の思い入れが深く、今年建立四〇周年となる比庵最後の歌碑があります。秋の一日を一緒にゆつくり散策し、名物深大寺そばを味わってみませんか。

参加要領の詳細は一ページに記載のとおりですが、当日は十一時から約一時間強、神代植物公園の四〇〇品種五千数百株といわれる丁度見頃の秋バラを、比庵の会員であり同園のボランティアアガイドである村本慎一さんの案内でお楽しみ頂きます。

昼食は深大寺山門前のそばのお店「門前」で摂ります。境内にある比庵歌碑「門前の蕎麦はうましと誰もいふ」を、わがごとと自任する比庵の会

会員浅田修平さんのお店です。

午後は深大寺を拝観します。比庵歌碑のほか、元禄八年建造の山門、幕末の大火に炙られ炭化した棟木の常香楼など、見どころいっぱい境内ですが、今回は特に住職のお話の後、比庵の会の会員であり当山の僧侶である菅原常光さん(歌碑と関わりの深い後述の延暦寺菅原榮海元座主の令孫)のご案内で、釈迦堂に安置されている重要文化財の白鳳佛、本堂の本尊阿弥陀如来像や元三大師堂を拝観させて頂きます。

なお、散会十五時三〇分頃の予定です。

都立神代植物公園 昭和十五年(一九四〇)、皇紀二六〇〇年の記念事として開設された防空緑地が前身。昭和三十六年一〇月、植物公園として開園。四七万㎡の敷地に四八〇〇種類、一〇万本の樹々があり、四季折々の花が楽しめる。

浮岳山深大寺 天平五年(七三三)創建。関東では浅草寺と並ぶ古刹。当初法相宗であったが、約百年後関東の騒乱平定祈願の功で比叡山の高僧恵亮和尚が賜り天台宗に。九九一年延暦寺座主慈恵大師が万民救済を發願し自刻像を深大寺に移し、厄除けの寺として多くの人の信仰を集める。

比庵歌碑と深大寺 日光町長時代の比庵と短歌を通じ親交があった医王院菅原榮海住職が、のち日光輪王寺門跡、さらには第二五二世延暦寺座主となられ、『窓日』創立四五周年記念行事である比庵歌碑の建立場所に、深大寺を推薦された。

深大寺そばの由来 元禄の頃、上野寛永寺の門主第五世公弁法親王が、深大寺から献上されたそばの風味を賞讃

し、一門や全国諸大名に広く知られるようになった。一説には鷹狩で寺に立ち寄った三代將軍家光が、出されたそばを賞讃したと云われる。

比庵佳境の会からその他のお知らせ

- ① 二七年一月一日(二月一日)日光市小杉放菴記念美術館で放菴・比庵展
- ② 二七年三月二日から五月一日日埼玉県川島町遠山記念館で比庵展
- ③ 村上廣元氏著「回想記」はるかなる茂吉と比庵

二五年春の叙勲で瑞宝双光章を受章した歌人で比庵研究家村上氏の回想記です。まだ在庫があるので「希望の方に贈呈したい」とのことです。申込は清水固迄お願いします。(先着順)

追記：比庵佳境の会会員で二六年度会費未納の方は下記に納入をお願いします。

一口1,000円(複数口歓迎)
三井住友銀行鶴見支店 普通 761558
名義：クボタノブユキ

比庵佳境の会

会長 清水 固 (清水比庵の孫)
〒247-0022 横浜市栄区戸戸3-5-18
TEL&FAX 045-893-8932
URL: <http://www.hat-hi-ho.ne.jp/katashi-shimizu/>
事務局 村上信行
〒247-0022 横浜市栄区戸戸4-15-4